

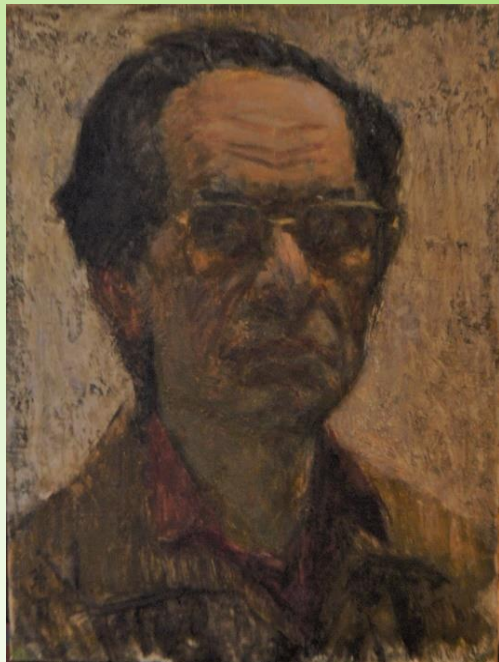
～洲之内徹（現代画廊主）にみいだされた二人の画家～

# 松田正平と川北英司

〔1984年 日本芸術大賞受賞〕



▲松田正平「周防灘Ⅲ」



▲川北英司「自画像」1985年



▲松田正平（薔薇）



▲川北英司「落花生のうぼっち」1985年

## 龍ヶ崎市歴史民俗資料館

2023 5/27(土)～6/25(日)

■開館時間：午前9時～午後5時 ■入場無料

■休館日：毎週月曜日

〒301-0004 茨城県龍ヶ崎市馴馬町2488 TEL0297-64-6227

主催：龍ヶ崎市教育委員会



<http://ryureki.org>

## ～洲之内徹にみいだされた二人の画家～

龍ヶ崎市出身の洋画家・川北英司の作品が昨年9月に当館へ寄贈されたことを記念し、あわせて川北がコレクションしていた松田正平の作品を借用して、**洲之内徹にみいだされた二人の画家**の作品展を開催いたします。

この二人は、昭和の初めに川端画学校で絵を学び、国画会に入選します。しかし、川北は結核を患い長期療養生活を送り、再び絵を描きはじめてのは56歳を過ぎてからです。その10年後、1978年に66歳で東京・愛宕山画廊で個展を開きます。

この頃に松田正平も東京・銀座の現代画廊で毎年個展を開くようになり、1984年に日本芸術大賞を受賞して、ようやく脚光を浴び美術雑誌でも特集されるようになります。

川北は若き日に出品した国画会の松田正平や喜多村知の絵が好きで、作品を求めたり直接訪ねたりしています。川北が持参した絵を見て、松田が現代画廊主の洲之内徹を紹介し、1982年から洲之内が急逝するまでの5年間、現代画廊で「川北英司展」を開いています。

洲之内の没後、画廊に残されていた作品はそのまま宮城県美術館に“洲之内コレクション”として146点が収蔵されています。そのうち松田の作品が3点、川北の自画像1点が含まれています。このように美術評論家で現代画廊主である洲之内徹によってみいだされたという共通点があり、松田は1996年刊行の『川北英司画集』に「底光りする風景」として川北への想いを寄稿しています。

また、今回展示する松田の作品は2018年11月6日に放送されたテレビ東京「開運なんでも鑑定団」の中では5点で高額の評価を受けています。ぜひ、この機会に洲之内にみいだされた二人の作品をご覧ください。

最後になりましたが、昨年ご寄贈いただきました作品に加え、松田正平の作品をご出品くださいました川北嗣夫ご夫妻をはじめ、川北英司の作品の所蔵者の皆さま、ご協力を賜りました関係各位に、心から厚く御礼を申し上げます。

2023年5月27日

龍ヶ崎市歴史民俗資料館



▲川北英司「モクズカニ」1987年



▲川北英司「利根・小貝川合流点」1986年



▲川北英司「柿」



▲川北英司「あざみ」1982年



▲松田正平「周防灘 デッサン」